



平成28年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成27年7月29日

上場会社名 株式会社ファンケル 上場取引所 東
 コード番号 4921 URL <http://www.fancl.jp/>
 代表者 (役職名)代表取締役社長執行役員 (氏名)宮島 和美
 (役職名)取締役専務執行役員 (氏名)島田 和幸
 問合せ先責任者 グループサポートセンター長 TEL 045-226-1200
 四半期報告書提出予定日 平成27年8月13日
 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有(機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成28年3月期第1四半期の連結業績(平成27年4月1日～平成27年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年3月期第1四半期	22,112	23.8	638	—	680	—	468	—
27年3月期第1四半期	17,863	△11.2	△584	—	△530	—	△302	—

(注) 包括利益 28年3月期第1四半期 462百万円(—%) 27年3月期第1四半期 △305百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
28年3月期第1四半期	7.34	7.25
27年3月期第1四半期	△4.77	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
28年3月期第1四半期	86,719	72,037	82.4
27年3月期	85,311	73,214	85.1

(参考) 自己資本 28年3月期第1四半期 71,443百万円 27年3月期 72,634百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
27年3月期	—	17.00	—	17.00	34.00
28年3月期	—	—	—	—	—
28年3月期(予想)	—	17.00	—	17.00	34.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成28年3月期の連結業績予想(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	42,600	16.6	△900	—	△850	—	△550	—	△8.69
通期	90,000	15.9	1,500	△62.5	1,650	△61.5	900	△60.9	14.06

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無

(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 一社 (社名) 、除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

28年3月期1Q	65,176,600株	27年3月期	65,176,600株
28年3月期1Q	1,863,729株	27年3月期	1,152,357株
28年3月期1Q	63,767,216株	27年3月期1Q	63,566,987株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数 (四半期累計)

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続を実施中です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件および業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信 (添付資料) 5 ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	6
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	6
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	6
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	6
3. 四半期連結財務諸表	7
(1) 四半期連結貸借対照表	7
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	9
四半期連結損益計算書	9
四半期連結包括利益計算書	10
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(セグメント情報等)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、公共投資が減少に転じているものの、個人消費は雇用・所得環境の着実な改善を背景に底堅く推移し、設備投資も企業収益が改善するなか堅調に推移するなど、総じて緩やかな回復を続けております。先行きについては新興国経済の動向が懸念されるものの、各種政策の効果もあり、緩やかな回復を続けていくと期待されます。

当第1四半期連結累計期間の売上高は、新中期経営計画(平成28年3月期～平成30年3月期)の方針のもと戦略的な広告投資を行ったことなどにより、化粧品関連事業、栄養補助食品関連事業が大幅な増収となり、全体では22,112百万円(前年同期比23.8%増)となりました。営業利益は、前年同期に対しマーケティング費用を大幅に増加させたものの、売上増による売上総利益の増加などにより、638百万円(前年同期は584百万円の営業損失)となりました。経常利益は680百万円(前年同期は530百万円の経常損失)、親会社株主に帰属する四半期純利益は468百万円(前年同期は302百万円の親会社株主に帰属する四半期純損失)となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

① 化粧品関連事業

売上高

化粧品関連事業の売上高は13,497百万円(前年同期比24.9%増)となりました。

	平成27年3月期 前第1四半期連結累計期間		平成28年3月期 当第1四半期連結累計期間		伸び率 (%)
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	
ファンケル化粧品	8,708	80.6	10,966	81.2	25.9
アテニア化粧品	1,791	16.6	1,888	14.0	5.4
boscia(ボウシヤ)	—	—	363	2.7	—
その他	305	2.8	278	2.1	△9.0
合計	10,805	100.0	13,497	100.0	24.9

	平成27年3月期 前第1四半期連結累計期間		平成28年3月期 当第1四半期連結累計期間		伸び率 (%)
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	
通信販売	5,133	47.5	5,750	42.6	12.0
店舗販売	3,796	35.1	5,127	38.0	35.1
卸販売他	752	7.0	1,022	7.6	35.9
海外	1,123	10.4	1,597	11.8	42.2
合計	10,805	100.0	13,497	100.0	24.9

ファンケル化粧品は、「マイルドクレンジングオイル」のプロモーション効果や、ホワイトニングラインのリニューアル、35周年記念キャンペーンなどにより好調に推移し、10,966百万円(前年同期比25.9%増)となりました。

アテニア化粧品は、前期に実施した主力スキンケアライン、メイク製品などのリニューアル効果や、既存のお客様向けのキャンペーンなどにより1,888百万円(前年同期比5.4%増)となりました。

なお、当第1四半期連結会計期間から米国子会社 FANCL INTERNATIONAL, INC. およびboscia, LLCを連結対象としており、boscia(ボウシヤ)についての売上高寄与は363百万円となりました。

販売チャネル別では、通信販売は5,750百万円(前年同期比12.0%増)、店舗販売は5,127百万円(前年同期比35.1%増)、卸販売他は1,022百万円(前年同期比35.9%増)、海外は1,597百万円(前年同期比42.2%増)となりました。

営業損益

損益面では、前年同期に対しマーケティング費用を増加させたものの、増収となったことなどにより、営業利益は1,692百万円(前年同期比485.3%増)となりました。

② 栄養補助食品関連事業

売上高

栄養補助食品関連事業の売上高は6,875百万円(前年同期比27.9%増)となりました。

	平成27年3月期 前第1四半期連結累計期間		平成28年3月期 当第1四半期連結累計期間		伸び率 (%)
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	
通信販売	2,106	39.2	2,528	36.8	20.1
店舗販売	1,286	23.9	1,716	25.0	33.4
卸販売他	1,664	31.0	2,286	33.2	37.4
海外	318	5.9	343	5.0	7.8
合計	5,376	100.0	6,875	100.0	27.9

製品面では、ダイエットサプリメント「大人のカロリミット」や、手元のピント調節機能を助けるサプリメント「えんきん」(機能性表示食品)などが好調に推移し、増収となりました。

販売チャネル別では、通信販売は2,528百万円(前年同期比20.1%増)、店舗販売は1,716百万円(前年同期比33.4%増)、卸販売他は2,286百万円(前年同期比37.4%増)、海外は343百万円(前年同期比7.8%増)となりました。

営業損益

損益面では、前年同期に対しマーケティング費用を大幅に増加させたものの、増収となったことなどにより、営業利益は48百万円(前年同期は451百万円の営業損失)となりました。

③ その他関連事業

売上高

その他関連事業の売上高は1,738百万円(前年同期比3.4%増)となりました。

	平成27年3月期 前第1四半期連結累計期間	平成28年3月期 当第1四半期連結累計期間	伸び率 (%)
	金額 (百万円)	金額 (百万円)	
発芽米	581	642	10.5
青汁	657	663	0.9
その他	443	433	△2.2
合計	1,681	1,738	3.4

発芽米は、5月20日からTVCMを展開するなど積極的な販売施策に取り組み、642百万円(前年同期比10.5%増)となりました。

青汁は、6月19日からTVCMを開始し、663百万円(前年同期比0.9%増)となりました。

その他は、433百万円(前年同期比2.2%減)となりました。

営業損益

損益面では、発芽米、青汁のマーケティング費用を前年同期に対し大幅に増加させたことなどにより、営業損失は724百万円(前年同期は20百万円の営業利益)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

資産は、前連結会計年度末に比べて1,408百万円増加し、86,719百万円となりました。この要因は、流動資産の増加1,475百万円および固定資産の減少67百万円であります。流動資産の増加の主な要因は、現金及び預金の増加2,600百万円および受取手形及び売掛金の増加769百万円ならびに預け金の増加などによる流動資産「その他」の増加2,330百万円と、有価証券の減少4,999百万円であります。固定資産の減少の主な要因は、投資有価証券の減少などによる投資その他の資産の減少685百万円と、有形固定資産「その他」の増加などによる有形固定資産の増加625百万円であります。

負債は、前連結会計年度末に比べて2,585百万円増加し、14,682百万円となりました。この要因は、流動負債の増加2,580百万円および固定負債の増加4百万円であります。流動負債の増加の主な要因は、支払手形及び買掛金の増加582百万円および未払金の増加などによる流動負債「その他」の増加2,209百万円と、未払法人税等の減少804百万円であります。

純資産は、前連結会計年度末に比べて1,176百万円減少し、72,037百万円となりました。この主な要因は、自己株式の取得などによる自己株式の増加1,034百万円および配当金の支払いなどによる利益剰余金の減少1,088百万円と、親会社株主に帰属する四半期純利益計上による利益剰余金の増加468百万円であります。

この結果、自己資本比率は前連結会計年度末から2.7ポイント低下し、82.4%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成27年5月11日の決算発表時に公表した平成28年3月期第2四半期連結累計期間(平成27年4月1日～平成27年9月30日)の業績予想を下記のとおり修正いたしました。

(第2四半期連結累計期間)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益		1株当たり 四半期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
前回発表予想	40,800	11.7	△1,800	—	△1,750	—	△1,200	—	△18.74
今回修正予想	42,600	16.6	△900	—	△850	—	△550	—	△8.69

新中期経営計画の方針のもと4月からスタートした戦略的な広告投資が成果を上げたこと、インバウンド需要が想定以上に増加したこと、広告宣伝費の使用時期を一部見直したことなどにより、上記のとおり売上高および各利益を上方修正いたします。

通期の連結業績予想につきましては、平成27年5月11日の決算発表時に公表した連結業績予想数値を据え置くことといたします。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

当第1四半期連結会計期間より、非連結子会社でありましたFANCL INTERNATIONAL, INC. およびboscia, LLCは重要性が増したため連結の範囲に含めております。

FANCL INTERNATIONAL, INC. およびboscia, LLCの決算日は12月31日であり、連結決算日との差は3ヶ月以内であるため、当第1四半期連結累計期間の四半期連結財務諸表の作成にあたっては、当該子会社の平成27年3月31日現在の四半期財務諸表を使用しております。

なお、四半期連結決算日までの期間に発生した重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(会計方針の変更)

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日)、「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成25年9月13日)および「事業分離等に関する会計基準」(企業会計基準第7号 平成25年9月13日)等を、当第1四半期連結会計期間から適用し、四半期純利益等の表示の変更を行っております。当該表示の変更を反映させるため、前第1四半期連結累計期間および前連結会計年度については、四半期連結財務諸表および連結財務諸表の組替えを行っております。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成27年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	18,652	21,253
受取手形及び売掛金	8,721	9,490
有価証券	12,006	7,007
商品及び製品	3,030	3,256
仕掛品	21	46
原材料及び貯蔵品	3,034	3,557
その他	2,534	4,864
貸倒引当金	△49	△49
流動資産合計	47,951	49,426
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	25,007	25,025
減価償却累計額及び減損損失累計額	△13,896	△14,035
建物及び構築物(純額)	11,111	10,990
機械装置及び運搬具	6,870	7,047
減価償却累計額及び減損損失累計額	△5,938	△5,992
機械装置及び運搬具(純額)	931	1,055
工具、器具及び備品	7,111	7,157
減価償却累計額及び減損損失累計額	△6,018	△6,077
工具、器具及び備品(純額)	1,092	1,080
土地	11,951	11,951
リース資産	384	392
減価償却累計額及び減損損失累計額	△228	△236
リース資産(純額)	155	156
その他	622	1,256
有形固定資産合計	25,865	26,490
無形固定資産		
その他	2,980	2,973
無形固定資産合計	2,980	2,973
投資その他の資産		
投資有価証券	6,087	5,657
その他	2,426	2,171
投資その他の資産合計	8,514	7,829
固定資産合計	37,360	37,292
資産合計	85,311	86,719

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成27年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,115	2,697
未払法人税等	1,612	807
賞与引当金	966	1,538
ポイント引当金	1,420	1,441
その他	4,280	6,490
流動負債合計	10,394	12,974
固定負債		
役員退職慰労引当金	88	-
退職給付に係る負債	1,063	1,059
資産除去債務	359	364
その他	190	283
固定負債合計	1,702	1,707
負債合計	12,096	14,682
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,795	10,795
資本剰余金	11,706	11,706
利益剰余金	51,468	51,170
自己株式	△1,362	△2,396
株主資本合計	72,607	71,275
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	-	143
退職給付に係る調整累計額	27	24
その他の包括利益累計額合計	27	167
新株予約権	579	593
純資産合計	73,214	72,037
負債純資産合計	85,311	86,719

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)
売上高	17,863	22,112
売上原価	5,345	6,519
売上総利益	12,517	15,592
販売費及び一般管理費	13,102	14,954
営業利益又は営業損失(△)	△584	638
営業外収益		
受取利息	5	1
受取配当金	0	0
受取賃貸料	3	26
為替差益	5	-
雑収入	50	41
営業外収益合計	65	69
営業外費用		
固定資産賃貸費用	-	8
為替差損	-	13
雑損失	11	5
営業外費用合計	11	27
経常利益又は経常損失(△)	△530	680
特別利益		
固定資産売却益	-	0
新株予約権戻入益	1	0
特別利益合計	1	0
特別損失		
固定資産除却損	1	9
減損損失	1	-
店舗閉鎖損失	0	3
その他	1	0
特別損失合計	5	12
税金等調整前四半期純利益又は 税金等調整前四半期純損失(△)	△534	668
法人税、住民税及び事業税	228	604
法人税等調整額	△459	△403
法人税等合計	△231	200
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△302	468
親会社株主に帰属する四半期純利益又は 親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△302	468

四半期連結包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△302	468
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△0	-
為替換算調整勘定	-	△2
退職給付に係る調整額	△2	△3
その他の包括利益合計	△2	△6
四半期包括利益	△305	462
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△305	462
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

前第1四半期連結累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	化粧品 関連事業	栄養 補助食品 関連事業	その他 関連事業 (注) 1			
売上高						
外部顧客への売上高	10,805	5,376	1,681	17,863	—	17,863
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	10,805	5,376	1,681	17,863	—	17,863
セグメント利益又は損失(△)	289	△451	20	△141	△443	△584

(注) 1 「その他関連事業」は、雑貨、装身具類、肌着類、発芽米、青汁等で構成されております。

2 セグメント利益又は損失の調整額△443百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用が含まれており、その主なものは、報告セグメントに帰属しない親会社本社の総務部門等に係る費用であります。

3 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

当第1四半期連結累計期間(自 平成27年4月1日 至 平成27年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	化粧品 関連事業	栄養 補助食品 関連事業	その他 関連事業 (注) 1			
売上高						
外部顧客への売上高	13,497	6,875	1,738	22,112	—	22,112
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	13,497	6,875	1,738	22,112	—	22,112
セグメント利益又は損失(△)	1,692	48	△724	1,016	△378	638

(注) 1 「その他関連事業」は、雑貨、装身具類、肌着類、発芽米、青汁等で構成されております。

2 セグメント利益又は損失の調整額△378百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用が含まれており、その主なものは、報告セグメントに帰属しない親会社本社の総務部門等に係る費用であります。

3 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

当第1四半期連結会計期間より、当企業集団の財政状態および経営成績の適切な理解に資するために、事業セグメントを再考した結果、従来「その他」に含まれていた複数の事業セグメントを「その他関連事業」として集約し、報告セグメントへ記載する方法に変更しております。

なお、前第1四半期連結累計期間のセグメント情報については変更後の区分方法により作成したものを記載しております。